

寒風が過ぎ去り、春が遅い長野の桜も咲き始めました。令和2年4月4日、長野保健医療大学に保健科学部81名、看護学部82名の新入生諸君を迎えることができましたことは大きな喜びです。

諸君、入学おめでとう。

ご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが発生し、世界中が対策に追われています。

そのため、本学でもやむなく入学式を中止することといたしました。晴れがましい姿の諸君の入学をお祝いできないことは大変残念です。例年行っております入学式の学長式辞に替えてメッセージを送ります。

長野保健医療大学は、前身である長野医療技術専門学校から、「徳風四海に洽（あまねく）」と「仁心妙術」を教育理念に掲げ、豊富な知識と優れた専門技術を持って、人のため、社会のために働く人材を育て、長野県の医療、福祉の場に送り出してまいりました。

徳とは、立派な行為を行う人柄です。

四海にあまねくとは、徳をもった社会人として社会に貢献することです。

仁心とは、他人を理解し、その人の立場になって考える、共感できる心です。

妙術とは、豊かな知識に裏打ちされた信頼される技術です。

私たちの大学は、仁心妙術を身につけ、病める人、悩める人、日常の生活に不自由を経験している人を理解し、共感し、確かな技術をもって、時に癒し、時に慰め、時に励まし、歩みをともにすることができる専門職を育てることを目指しております。

今まさに、新型コロナウイルス感染症が世界中に流行し、我が国においては、この流行を抑えることができなければ、多くの患者さんが病院で治療を受けることができなくなる医療崩壊の危機が起こるかもしれません。諸君は、将来の我が国の医療を支える職業に就くために長野保健医療大学に入学されました。医療の現場は、自らの身を危険にさらしても、職務を続けなければならないことがある厳しい職場です。まず、自らの健康を守らなければ、職務を遂行できません。基本的な衛生習慣、規則正しい日常生活を守り、感染しない、また感染させないために、市民として感染予防、拡大防止に積極的に協力してください。

これからの20年は、人口減少と高齢化が急速に進み、3人に1人以上が高齢者となる社会となります。ひとり一人の生き方、家族の在り方、働き方、社会の仕組みなどがじわじわと変わっていくことでしょう。若い納税者が多くの高齢者を支えることになる社会に備えて、国は税と社会保障制度を一体的に改革し、将来に向かって安定して発展し国民全員が活躍する社会を目指しています。

高齢者は、体力は衰え、病気がちで、日々の生活で不自由を抱えがちとなりますが、長年の経験をもとに豊富な知恵を持っています。

若者は、体力、気力に満ちあふれ、夢と希望をもって、困難にも立ち向かう力を持っています。

若者のバイタリティと高齢者の知恵とを持ち寄って希望のある社会を築かなければなりません。

2018年の世界保健機関のデータでは、我が国は世界1の長寿国です。平均寿命はこれからも伸びると予想されています。日常生活を自立して過ごせる期間をしめす健康寿命も、2018年には世界2位でした。日本は健康な国ですが、新型コロナウイルス感染症患者さんが増加すれば、医療機関が患者さんを受け入れることができなくなるかもしれません。

また、超高齢社会を迎え、医療、介護に多くの課題を抱え、経済的にも明るい未来が見えない状況にあります。我が国の医療・福祉の制度は、先人が作り上げてきた、世界の超一流の制度であります。しかし、時代に合わなくなっている点も目立ち、早急に新しい制度に改革していかなければなりません。

その際に目指す社会とは、「国民一人一人が豊かな人間性を育み生きる力を身に付けていくとともに、国民皆で子供や若者を育成・支援し、年齢や障害の有無等にかかわらず安全に安心して暮らせる社会」すなわち「共生社会」であります。

共生社会は、人々の多様性を認め合う社会、すなわち肌の色、宗教、信条、職業はもちろんのこと、姿、心身の能力の違いを認め合い、人としての尊厳を認め合う社会です。私たちの社会は、こども、成人、高齢者と年齢が異なる人々、病気を患う人々、心身の機能により日常生活に不自由を経験しているなど多様な健康状態にある人々が共に生活しています。障害には、手足を切断した、または麻痺したというような身体障害から、統合失調症、認知症、発達障害のような精神・認知機能の変調による障害があります。

また、10年ほど前には、がんの患者さんは診断を受けると数ヶ月でこの世を去っていました。今日では、2003年から2006年の間にがんの診断を受けた患者さんの10年生存率は57.2%と報告されました。生活上の不自由を抱えつつ仕事に復帰して、数年以上の人生を生きる人が増えています。

これからの社会は、このような多くの異なった特性をもつ人々が増える社会です。「年齢や障害の有無等にかかわらず安全に安心して暮らせる社会」にしていくために、多様な特性をもつ人々が人として理解され、人としての尊厳が認められなければなりません。そのために、保健、医療、福祉を充実させ、病気や障害のある人々の不自由を減らしていかなければなりません。その中核的な役割を担うのが皆さんの仕事です。

先人が、希望を持って新しい社会を作り上げたように、皆さんも、超高齢社会、人口減少する少子社会を明るく希望のある社会とするために、学問を修め、

専門職としての力量を身に付けてください。

今日の保健、医療、福祉、介護の仕事は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床検査技師、社会福祉士など多くの専門職が参加したチームにより行われています。理学療法士、作業療法士、看護師は、きわめて重要なチームメンバーであります。専門職には、豊富な専門知識、信頼される専門技術が求められます。

また、有能で善きチームメンバーには、他の職種を理解し、一つの目標に向かってともに力を合わせることを求められます。

大学は、学びの場であると同時に、友と語り、悩みに共感し、友情を育み、人生を生きる喜び、夢と希望を培う場であります。

深い悩みは豊かな人生の入り口であります。悩みを一人で抱え込むことなく、先生に、先輩に、友人に、ご家族に相談し、前に進んでください。

ご家族はじめ何人もの方が皆さんを見ています。皆さんの喜びを自分のこととして喜んでくれます。私たちも、その一員です。

私たちは、全力で皆さんの悩みを受け止め、喜びを共にします。皆で、悩み、喜ぶ大学として行きましょう。

皆さんは、自分の、そして日本の将来を開拓する開拓者であります。

長野保健医療大学は生まれてまもない大学で、皆さんは、大学の歴史を築いていく開拓者でもあります。皆さんの開拓する将来は、大学が開拓する将来でもあります。

皆さんが、人生をかけて取り組む事業の基礎固めが私たち大学の役割です。共に、力を尽くして行きましょう。

私たちは、皆さんの実りある学生生活のため、全力を傾注します。

健康的な生活習慣を身につけ、友情を育み、互いに助け合って、厳しい学びにも、笑顔で取り組んでください。

終わりに当たり、諸君を育て、将来を楽しみにしているご家族の皆さん、学園を支えてくださる関係者の皆様のご健勝とご多幸、ご発展をお祈り申し上げます。

令和2年4月4日
長野保健医療大学
学長 岩谷 力